

# あたらしくはいった本 (令和元年10月 貸出開始資料から)

●小説 某(川上弘美/著) 1の悲劇(米澤穂信/著) 流葉断の太刀(上田秀人/著) 八人の招待客(Q.パトリック/著) オーガ(二)ズム(阿部和重/著) また明日(群ようこ/著) 不審者(伊岡瞬/著) 死にゆく者の祈り(中山七里/著) シンコ・エスキナス街の罠(マリオ・バルガス＝リョサ/著) 名残の花(澤田瞳子/著)

●随筆・詩などの文学 旅の作法、人生の極意(山本一力/著) 「作家」と「魔女」の集まっちゃった思い出(角野栄子/著) 大伴旅人(中西進/編) この道をどこまでも行くんだ(椎名誠/著) 親の介護をしないとダメですか？(吉田潮/著)

●その他の本 「伝えたつもり」をなくす本(中山マコト/著) 真夜中の陽だまり(三宅玲子/著) スマホで旅行写真コツと裏ワザ(庄子利男/著) 親に届ける宅配ごはん(岩崎啓子/著) 災害に強いまちづくりは互近助の力(山村武彦/著) まちの植物のせかい(鈴木純/文・写真) パンクシー壊れかけた世界に愛を(吉荒夕記/著)



『某』  
川上弘美/著  
幻冬社



『「伝えたつもり」をなくす本』  
中山マコト/著  
総合法令出版



『真夜中の陽だまり』  
三宅玲子/著  
文藝春秋

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

令和元年	日	月	火	水	木	金	土
12	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

○のついた日は休館日

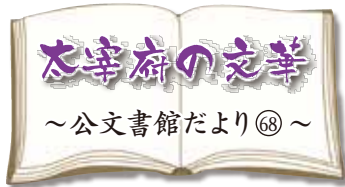
金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

## 大宰府の廃止

天平14(742)年正月に大宰府が廃止された、と歴史書『続日本紀』は伝えていますが、2年前、現任の大宰少式であった藤原広嗣が起した反乱(藤原広嗣の乱)がその原因であるという見解があり、これは定説といつてよいでしょう。それでは、大宰府が廃止された時、本来、大宰府がもっていた対外的機能、管内支配機能、軍事的機能といった役割はどうなったのでしょうか。

まず、廃止から後にふれる筑紫鎮西府設置までの間に、新羅使が2度来航しています。2度目の来航報告は筑前国司からなされているものの、その饗応・処遇には中央から派遣された使者があたっています。このことは、対外的機能についていえば、現地の官員や機構のみでは対応できなかったことを示すと考えられます。

管内支配機能については、廃止にあたって大宰府に貯えられていた稲穀や調庸などを含む「廃府官物」が筑前国司に付与されています。その一部は、のちに大隅国など2国3島に、禄として支給されることとなります。以前には、筑前国が大宰府の管内支配機能を代行したとの説もありましたが、当時の記録を検討すると、大宰府が存在しないことを前提に変更が加えられた点などもあることから、筑前国司は、たとえば「廃府



官物」の管理、出納などの事務処理にあたったものと考えたほうがよいと思います。

問題は軍事的機能です。なぜなら藤原広嗣の乱では、その兵数からみて管内諸国の軍団兵士が動員されていると考えられます。このことをどのように理解するかについてはさまざまな考え方がありますが、少なくとも大宰府の有していた軍事的機能には、なんらかの形で管内諸国の軍団を動員・指揮する権限が含まれていた、と考えざるを得ないでしょう。そうでなければ、藤原広嗣の乱をきっかけとして大宰府が廃止されたこととみることの説明がつかないからです。つまり、大宰府廃止は、こうした大宰府と管内諸国軍団との関係を断ち切ることにあったと考えられるのです。

一方、天平15(743)年12月には、筑紫鎮西府が設置されました。わたくしは、これは大宰府の有していた対外的機能、管内支配機能、軍事的機能のそれぞれ一部を引き継いだものと考えています。そして、筑紫鎮西府において重視された軍事力は、管内諸国軍団よりもむしろ防人軍だったのではないかと推測しています。

大宰府市公文書館

重松 敏彦